

国語科（国語）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○社会生活に必要な国語の特質（言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化）を理解し適切に使うことができるように、どのような工夫がされているか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うために、どのような工夫がされているか。 ○言語活動を通して、言語能力を育成するためにどのような工夫がされているか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重する能力の向上を図る態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫> ○自ら進んで読書をし、読書を通して自分の考えを広げたり深めたりするために、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵・写真・図表等、資料のレイアウトにどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○漢字・用語・記号などの使い方にどのような工夫が見られるか。</p> <p>○教材や内容の文章表現の難易度について、生徒の言語能力の発達の段階からどのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新しい国語</h1>	2 東 書
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○複数の教材末の「てびき」の中に「広がる言葉」を設定したり、資料の「言葉を広げよう」と関連付けたりすることで、語彙の拡充を図っている。 ○巻末の「論理的な言葉の力」において、1年では情報の分類や比較、2年では情報の整理、3年では情報の多面的な捉え方を取り上げている。身近な例を題材とした教材を設定し、情報を活用する力を身に付ける工夫をしている。 ○古典に親しませるために、見開き教材の資料で古文を理解させるための工夫をしたり、巻末資料で様々な古典作品を取り上げたりしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「聞く」「話す」「話し合う」という言語活動について、各学年一つずつ教材を配置して言語活動の充実を図っている。また、「話す」「話し合う」の教材では、「学習の流れ」を示し、言語活動の見通しを示すようにしている。 ○「読むこと」の教材から学んだ表現や構成等を生かして書く活動を行うなど、「読むこと」と「書くこと」を結び付けて、多面的に思考できるように工夫している。「学びの扉」を設け、言葉を活用する力の育成に配慮している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末に「『言葉の力』一覧」として、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で学習する言葉の力を3年間系統的に学べるように示している。 ○「学びの扉」「学びを支える言葉の力」では、授業や日常生活での言葉の使い方や話の聞き方・伝え方を漫画等でまとめている。 <p><読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の教材ごとに「読書案内」を配置している。「読書への招待」、資料編「本の世界を楽しもう」などで学習した教材と読み比べられる本を紹介している。 ○1年で図書館調べやポップ作り、2年でビブリオバトルやレポート、3年で読書会などに取り組み、社会生活とつながる読書活動を取り入れている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭では、目次で各教材と領域の関係を色別の記号を付けて掲載したり、小学校や前学年の既習事項を領域ごとに掲載したりしている。 ○巻末に、論理的・文学的・対話的な言葉の力を高める「基礎編」と、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の補充学習ができる「資料編」を掲載している。 ○Dマークを付した各教材では、ウェブサイト上で教科書と連動したデジタルコンテンツを閲覧、利用することができるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○新出漢字を1字で脚注に複数の読み方とともに示している。また、巻末資料では当該学年の学習漢字について筆順や用例をまとめている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○1年の教科書で、小学校で掲載されている作者の作品を扱ったり、既習事項と当該学年の学習内容を巻頭で説明したりしている。 	

国語科（国語）調査資料 1－2

<p>書名 項目</p>	<h1 style="margin: 0;">現代の国語</h1>	<p>15 三省堂</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の教材末にある「学びの道しるべ」で「語彙を豊かに」を設定したり、資料で「辞典を活用する」などを掲載したりすることで、語彙の拡充を図っている。 ○情報について、自分の考えを深める単元「情報に関係づける」を設けている。また、資料編には、全学年で「情報を活用する」を設定し、情報探しの方法、引用と著作権について具体的に示している。 ○古典に親しませるために、見開き教材の資料で古文を理解させるための工夫をしたり、巻末資料で古典芸能に関する教材を取り上げたりしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」について、各学年三つの教材で構成している。各学年ともグループでの話し合いから、学年に応じた活動ができるよう配慮し、言語活動の充実を図っている。また「書くこと」と「話すこと」を関連させる工夫をしている。 ○「読むこと」の文章と、同じ文種の文を書く活動を行うなど、「読むこと」と「書くこと」を結び付け、多面的に思考できるように工夫している。また、「読み方を学ぼう」を設け、「読むこと」の学習内容について確認できるようにしている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとに「学びの道しるべ」を設け、学習の見通しを持たせている。また、巻末資料の「読み方を学ぼう（一覧）」により、一年間の振り返りができるようにしている。 ○各学年の巻末資料に、類義語や擬声語などテーマを設けた語彙の資料や、手紙の書き方・話し合いの仕方等を一覧にして掲載している。 <p><読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の教材ごとに「私の本棚」を配置している。読書単元「読書の広場」や資料「日本文学名作集」を設け、様々な本を紹介している。 ○1年でブッククラブ、2年でビブリオバトル、3年でブックトークに取り組み、社会生活とつながる読書活動を取り入れている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「この教科書の使い方」において、「見通し」から「振り返り」までの学習の過程を示して説明している。 ○巻末に、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の補充学習ができる「資料編」を掲載し、国語の学習に役立つ用語を「学習用語辞典」でまとめている。 ○古典教材と「読書の広場」にQRコードがあり、それを読み取ると教科書と連動したコンテンツを閲覧、利用することができるようになっている。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○新出漢字を1語単位で脚注に示し、各教材末に用例とともに示している。また、巻末資料では当該学年の学習漢字の用例や筆順、同音異字などをまとめている。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○1年の教科書で、小学校で掲載されている作者の作品を扱ったり、話し合い活動や説明文の基本が確認できるようになったりしている。 	

書名 項目	<h1>伝え合う言葉 中学国語</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">教 出</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「言葉の地図」、各教材末にある「みちしるべ」の中の「この教材で学ぶ言葉」、巻末折込みの「理解に役立つ言葉」等で語彙の拡充を図っている。 ○巻末折込みの「表現に役立つ言葉」に情報の関係を整理して表現する時に役立つ文型等を掲載している。教材末の「学びナビ」で語彙と情報の扱い方を関連付けることで、情報の扱い方が身に付くように工夫している。 ○古典に親しませるために、写真等の資料で古文を理解させるための工夫をしたり、巻末資料で古典芸能の教材や古典文法を取り上げたりしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」について、1年は4つの教材、2・3年は五つの教材で構成している。様々な話し合いの手段を紹介し、言語活動の充実を図っている。また、話し方・聞き方を系統的に学び、振り返りができる工夫をしている。 ○「読むこと」の教材から学んだ表現や構成等を生かして実用的な文章を書く活動を行うなど、「読むこと」と「書くこと」を結び付け、多面的に思考できるように工夫している。また、文章を読む前に読むときの着目点を示している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「言葉の地図」に学習内容と身に付けたい力の一覧を掲載している。それをもとに各教材の「みちしるべ」と連動させ、学習の振り返りの視点を示している。 ○巻末資料では現代文学・古典文学の読書教材の他、授業や日常生活で文章を書くときの注意点や表現に役立つ言葉をまとめている。 <p><読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○單元ごとに「広がる本の世界」を配置している。「読書への招待」という教材を設定して、読書活動につながる本を紹介している。 ○1年で本の帯やポップ作り、2年で読書レポート、3年でビブリオバトルや読書記録に取り組み、社会生活とつながる読書活動を取り入れている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「言葉の地図」において、1年間で学ぶ内容と身に付けたい言葉の力をSDGsの視点との関わりが分かるように示している。 ○巻末に、言葉と文法についてまとめられた「解説編」と、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の補充学習ができる「言葉の自習室」を掲載している。 ○まなびリンクマークのある教材では、学習時に参照できる資料をウェブサイトで閲覧、利用することができるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○新出漢字を脚注では1字で示し、各教材末に用例とともに示している。また、巻末資料では当該学年以外に小学6年の学習漢字の筆順と用例をまとめている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○1年の教科書では、小学校で掲載されている作者の作品を扱ったり、各教材の読み方を小学校での既習事項を踏まえて解説したりしている。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">国語</h1>	38 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">光 村</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年は「言葉を集めよう」、2年は「言葉を比べよう」、3年は「言葉を選ぼう」という教材を設定し、巻末資料に「語彙を豊かに」を掲載して語彙の拡充を図っている。 ○情報について、「情報整理のレッスン」や「思考のレッスン」を設けて、情報の扱い方を示している。情報に関する教材をまとめて示す単元「情報社会を生きる」を各学年に設定し、情報を活用する力を高める工夫をしている。 ○古典に親しませるように、QRコードで朗読音声を提示して古文を理解させるための工夫をしたり、巻末資料で古典芸能や古典作品を取り上げたりしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」について、1・3年は七つの教材、2年は六つの教材で構成している。音声言語の技能に関する教材と、それを活用した言語活動を行う教材を配置し、技能と活動を一体化させて学ばせようとしている。 ○「読むこと」の教材文から学んだ表現や構成等を生かして書く活動を行うなど、「読むこと」と「書くこと」を結び付け、多面的に思考できるように工夫している。「学習の窓」では、読むときの着目点を示している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習内容の振り返りができるように、巻末資料に『学習の窓』一覧を設定し、各教材で学んだ基本的なことを示している。 ○巻末の資料「豊かに表現するために」では、日常生活に生きるテーマを設け、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域の1年間で学習した言語活動を掲載している。 <p><読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の教材ごとに「広がる読書」を配置している。読書単元を二つ設定し、テーマ別に本を紹介したり、読み比べにつなげさせたりしている。 ○1年でポップ作りや読書記録、2年で本の紹介合戦やポスター作り、3年でブックトークや読書会などに取り組み、社会生活とつながる読書活動を取り入れている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭では、目次で各教材と領域の関係を色別の記号を付けて掲載したり、「思考の地図」で様々な思考の方法を具体的に紹介したりしている。 ○巻末に、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の補充学習ができる資料や、学習の定着を図る課題を掲載している。 ○各教材の最後に記載されているQRコードを読み取ると教科書と連動したコンテンツを閲覧、利用することができるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○新出漢字を1語単位で脚注に示し、各教材末に1字でまとめて示している。巻末資料では、当該学年の学習漢字の用例や筆順、四字熟語の用例などをまとめている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○1年の教科書で、小学校で掲載されている作者の作品を扱ったり、言語活動の基本的な説明を最初にまとめたりしている。 	

国語科（国語） 調査資料 2

○分量について

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	342	357	354	340
	2年	346	357	366	336
	3年	345	341	354	324
2 巻末資料、付録等の総ページ数 ※ ページ番号のない部分も含む	1年	89	98	82	91
	2年	91	94	74	90
	3年	100	96	72	106
3 単元数	1年	7	9	9	8
	2年	7	9	9	8
	3年	7	8	8	8

○領域別教材数等について ※（ ）内は、資料編等の中の教材及び資料数

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村	
1 教材数 ※ 扉の部分の詩も教材数に含む	1年	60(31)	62(18)	64(26)	80(24)	
	2年	59(36)	62(18)	63(24)	75(26)	
	3年	58(34)	58(18)	63(25)	69(28)	
2 領域別教材数	① 言葉の特徴や使い方に関する事項	1年	14(10)	19(8)	16(12)	25(12)
		2年	13(13)	18(8)	15(14)	24(12)
		3年	12(13)	16(8)	14(14)	22(11)
	② 情報の取り扱いに関する事項	1年	3(5)	1(4)	3(1)	7(0)
		2年	3(4)	1(4)	1(0)	7(0)
		3年	3(4)	1(4)	3(0)	5(1)
	③ 我が国の言語文化に関する事項	1年	14(3)	14(3)	19(9)	15(3)
		2年	12(5)	13(3)	18(7)	13(4)
		3年	14(7)	14(3)	17(8)	15(5)
	④ 話すこと・聞くこと	1年	4(3)	2(1)	5(1)	7(1)
		2年	4(4)	2(1)	6(1)	5(3)
		3年	4(3)	2(1)	7(2)	6(3)
	⑤ 書くこと	1年	7(6)	7(2)	7(3)	7(6)
		2年	7(6)	7(2)	8(2)	8(4)
		3年	5(4)	5(2)	4(1)	6(3)
	⑥ 読むこと	1年	18(4)	19(0)	14(0)	19(2)
		2年	20(4)	21(0)	15(0)	18(3)
		3年	20(3)	20(0)	18(0)	15(5)

○文種別教材数について ※（ ）内は、資料編等の中の教材数

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村
1 説明的文章 ※ 新聞記事等を含む	1年	3(1)	6(1)	9(0)	8(1)
	2年	5(1)	7(1)	8(0)	7(1)
	3年	4(1)	6(1)	11(1)	6(0)
2 物語・小説・随筆 ※ 古典は除く	1年	7(1)	6(3)	6(2)	10(1)
	2年	6(1)	4(3)	7(2)	9(1)
	3年	6(1)	5(3)	8(3)	8(4)
3 詩・短歌・俳句 ※ 巻頭詩等を含む	1年	11(0)	3(0)	7(1)	10(0)
	2年	12(0)	5(0)	7(1)	9(0)
	3年	13(0)	5(0)	10(1)	10(0)
4 古典 ※ 漢文・和歌・川柳等を含む	1年	4(1)	3(2)	3(2)	4(2)
	2年	3(3)	3(2)	3(2)	6(3)
	3年	3(3)	3(2)	3(1)	6(2)

○その他 ※（ ）内は、資料編等の中の教材数

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村
学校図書館等の活用に関する教材数 (読書案内・読書活動を含む)	1年	8(2)	8(0)	11(4)	9(0)
	2年	8(2)	8(0)	11(4)	7(0)
	3年	8(2)	8(0)	10(4)	8(0)